

製品名: NOS2 (リン酸化 Tyr151) ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab05121

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	NOS2, INOS
別名	NOS2; NOS2A; Nitric oxide synthase; inducible; Hepatocyte NOS; HEP-NOS; Inducible NO synthase; Inducible NOS; iNOS; NOS type II; Peptidyl-cysteine S-nitrosylase NOS2
遺伝子 ID	4843.0
SwissProt ID	P35228
免疫原	抗血清は、ヒト iNOS 由来の Tyr151 のリン酸化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 117-166

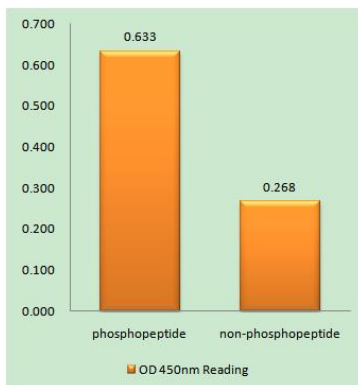
背景

一酸化窒素は、神経伝達、抗菌作用、抗腫瘍作用など、様々なプロセスにおいて生物学的メディエーターとして作用する反応性フリーラジカルです。この遺伝子は、肝臓で発現し、リポ多糖と特定のサイトカインの組み合わせによって誘導される一酸化窒素合成酵素をコードしています。3つの関連する擬似遺伝子が、17番染色体のスミス・マゲニス症候群領域内に位置しています。[RefSeq提供、2008年7月],触媒活性: $L\text{-アルギニン} + n\text{ NADPH} + n\text{ H}^+ + m\text{ O}_2 = \text{シトルリン} + \text{一酸化窒素} + n\text{ NADP}^+$,補因子: 1つのFADと結合します。補因子: 1つのFMNと結合します。補因子: ヘム基,補因子: テトラヒドロbiopterin (BH4)。酵素の二量体形態を安定化させる可能性があります。酵素調節: カルシウム/カルモジュリンによって調節されます。アスピリンはこの酵素の発現と機能を阻害し、翻訳・翻訳後修飾レベルおよび触媒活性に直接影響を及ぼす可能性がある。機能: 全身で多様な機能を持つメッセンジャー分子である一酸化窒素 (NO) を産生する。マクロファージにおいて、NOは殺腫瘍作用および殺菌作用を媒介する。誘導: エンドトキシンおよびサイトカインによる。オンライン情報: 一酸化窒素合成酵素エントリ,類似性: NOSファミリーに属する。類似性: FAD結合FR型ドメインを1つ含む。類似性: フラボドキシン様ドメインを1つ含む。サブユニット: ホモ二量体。SLC9A3R1に結合する。組織特異性: 肝臓、網膜、骨細胞、肺の気道上皮細胞に発現する。血小板には発現しない。

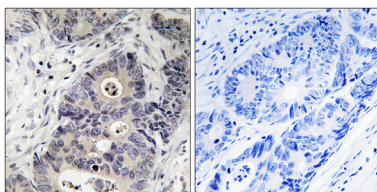
研究分野

アルギニンおよびプロリン代謝;カルシウム;がんにおける経路;小細胞肺がん;

画像データ



iNOS (リン酸化 Tyr151) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



iNOS (リン酸化 Tyr151) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト大腸癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。